

# デルフィニウム ‘さくらひめ’ の鉢物栽培における 年内出荷技術

藤林弘恭 岩城篤哉 重川裕

The technology of achieving shipment until the end of the year on pot cultivation of *Delphinium grandiflorum*  
cv. ‘Sakurahime’

FUJIBAYASHI Hiroyasu, IWAKI Atsuya and SHIGEKAWA Yutaka

## 要旨

愛媛県育成シネンシス系デルフィニウム ‘さくらひめ’ は切り花品種として育成され、ピンク色の花色が特徴である。‘さくらひめ’ の生産振興を図るため切り花だけではなく鉢物として利用するため、開花時の草丈 50cm 以下を目標に草丈抑制のための摘心方法、開花調節のための温度管理を検討し、促成栽培（8月上旬播種）及び半促成栽培（9月上旬播種）において、無加温及び最低温度 5℃加温の条件下で、草丈 10cm 時に地際から 5cm 摘心及び出蕾時に地際から 1cm 摘心の組み合わせにより、草丈 50cm 以下の草姿で1月中旬～5月中旬の連続出荷できる技術を確立した。一方、花き市場や県内の鉢物生産農家からは11～12月の年内出荷の要望があり、6月及び7月播種の作型において摘心方法の違いが生育等に及ぼす影響について検討した。

その結果、6月10日及び7月11日播種では、無摘心、草丈 10cm 時に地際から 2cm 及び 5cm に摘心するいずれの摘心方法に関係なく、草丈は 43cm 以下となり、6月10日播種では9月下旬～10月上旬、7月11日播種では10月下旬～11月上旬の開花となり、目標とした草丈 50cm 以下で年内出荷が可能となった。

キーワード：デルフィニウム，‘さくらひめ’，摘心，年内出荷

## 1. 緒言

愛媛県が育成し2016年2月に品種登録したシネンシス系デルフィニウム ‘さくらひめ’ は、ピンク色の花色が特徴であり、他のピンク色品種と比較して草丈が高くなる特性をもち（岡本ら，2014），この特性は切り花品種として有利である。

一方、‘さくらひめ’ の生産をさらに振興するためには、切り花だけでなく新たな用途開発として鉢物への利用が不可欠となり、鉢物に適した草姿となる栽培技術の開発に取り組んできた。鉢物は鑑賞性や流通のコスト等の面から出荷時の草丈が 50cm を超えない草姿が適しているとされている。

本研究花き研究指導室では、‘さくらひめ’

の1番花開花時の草丈が 50cm 以下を目標に、7～12月播種の作型において、1番花の摘心位置及び時期、温度管理方法が生育・開花等に与える影響について検討した。その結果、‘さくらひめ’ の鉢物栽培は、促成栽培（8月上旬播種）及び半促成栽培（9月上旬播種）において、無加温及び最低温度 5℃加温の条件下で、草丈 10cm 時に地際より 5cm 及び出蕾時に 1cm 摘心の組み合わせにより、草丈 50cm 以下の草姿で1月中旬～5月中旬の連続出荷できる技術を確立した（岩城ら，2021）。

しかし、花き市場や県内の鉢物生産農家からは年内出荷の要望があるため、6月及び7月播種の作型において摘心方法の違いが生育等に及ぼす影響を調査し、作期の拡大を目指した年内出荷技術について検討した。

## 2. 材料および方法

### 2.1 試験区の概要

供試品種はデルフィニウム‘さくらひめ’を用い、試験区の概要は表1のとおりで、播種は2021年6月10日及び7月11日に行い、摘心は草丈10cm時に地際より2cm及び5cmに摘心した区、無摘心区とし、播種時期と摘心方法の違いが生育、品質に及ぼす影響について検討した。

表1 試験区の概要

| 播種日<br>(月/日) | 摘心方法                                 |
|--------------|--------------------------------------|
| 6/10         | 草丈10cm時に地際より2cm<br>× 草丈10cm時に地際より5cm |
| 7/11         | 無摘心                                  |

### 2.2 耕種概要

播種はメトロミックス350Jを充填した200穴セルトレイに、2021年6月10日、7月11日に行い、播種後バーミキュライトGSで覆土し、冷房育苗施設で管理した。

冷房育苗の管理温度は、8:00~17:00は25℃、17:00~8:00は15℃で、電照時間(植物育成用40W×4本幅65cm×長さ130cm×高さ30cm)は8:00~17:00とした。

移植は2021年7月30日(6月10日播種)、8月29日(7月11日播種)に2.5号深型ポリポットに1本植えした。培養土は調整ピートモス:赤玉土:腐植土:パーライト:バーミキュライト=4:3:1:1:1(容積比)とし、培養土1ℓ当たり緩効性肥料のマグアンプⅡ(N:P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>:K<sub>2</sub>O=6:40:6)を3g基肥施用した。

定植は2021年8月27日(6月10日播種)、9月28日(7月11日播種)に4号プラスチック鉢(スリット入り)に1本植えした。培養土及び基肥は移植と同様とし、栽植密度12.3株/m<sup>2</sup>になるように配置した。

施肥は、移植7日後に緩効性肥料のIB化成S1号(N:P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>:K<sub>2</sub>O=10:10:10)を1ポリポット当たり2粒置肥し、定植7日後に移植後と同じ

肥料を1鉢当たり3粒置肥し、その後毎月1回、1鉢当たり3粒置肥した。

7月30日~9月30日までは50%遮光下で、栽培期間中のハウス内温度管理は25℃で換気し、最低温度10℃を保つよう温湯暖房で管理した。

### 2.3 調査項目

抽台日、抽台時本葉数、開花日、草丈、花穂長、花蕾数、分枝数、花径、株幅を調査した。

## 3. 結果及び考察

### 3.1 播種時期の違いによる抽台日及び抽台時本葉数の検討

播種時期の違いが抽台日・抽台時本葉数に及ぼす影響について表2に示した。抽台日は6月10日播種が8月23日、7月11日播種が9月23日となり、播種から抽台までの日数はほぼ同じであった。抽台時の本葉数は6月10日播種が7.2枚、7月11日播種が8.3枚となり、7月11日播種のほうが多くなった。

### 3.2 播種時期及び摘心方法の違いが生育及び品質に及ぼす影響の検討

#### 3.2.1 開花日

播種時期と摘心方法の違いが開花日に及ぼす影響について表3に示した。6月10日播種の開花日は無摘心区が9月24日、2cm摘心区が10月6日、5cm摘心区が10月2日となり、無摘心区が2cm摘心区より18日、5cm摘心区より22日早くなった。7月11日播種では無摘心区が10月26日、2cm摘心区が11月13日、5cm摘心区が11月10日となり、無摘心区が2cm摘心区より18日、5cm摘心区より15日早くなった。

#### 3.2.2 草丈

6月10日播種の草丈は無摘心区が35.1cm、2cm摘心区が28.7cm、5cm摘心区が33.9cmとなり、摘心方法に関係なく35cm以下となった。7月11日播種では無摘心区が42.8cm、2cm摘心区が29.3cm、5cm摘心区が41.2cmとなり、摘心方法に関係なく43cm以下となった。草丈は全ての区で50cm以下となり、鉢物に適した草姿を満たした。

### 3.2.3 花蕾数

6月10日播種の分枝の花蕾数は無摘心区が26.0個、2cm摘心区が24.8個、5cm摘心区が36.8個となり、5cm摘心区が最も多くなる傾向がみられた。7月11日播種では無摘心区が47.6個、2cm摘心区が30.5個、5cm摘心区が51.4個となり、

無摘心区と5cm摘心区が2cm摘心区より多くなった。花蕾数は、同じ摘心方法では7月播種が6月播種より多くなる傾向がみられた。

### 3.2.4 株幅

株幅は、2cm摘心区の場合、7月11日播種が6月10日播種に比べて大きくなった。

表2 播種時期の違いが抽台日・抽台時本葉数に及ぼす影響

| 播種日<br>(月/日) | 抽台日<br>(月/日) | 抽台時本葉数<br>(枚) | 本葉数<br>(n) |
|--------------|--------------|---------------|------------|
| 6/10         | 8/23         | 7.2 b         | 30         |
| 7/11         | 9/23         | 8.3 a         | 20         |
| * *          |              |               |            |

表中\* \*はT検定1%水準で有意差あり

表3 播種時期と摘心方法の違いが生育に及ぼす影響

| 播種日<br>(月/日) | 摘心方法 | 開花日<br>(月/日) | 草丈<br>(cm) | 花穂          |            | 分枝           |              | 花径<br>(cm) | 株幅<br>(cm) | (n) |
|--------------|------|--------------|------------|-------------|------------|--------------|--------------|------------|------------|-----|
|              |      |              |            | 花穂長<br>(cm) | 花蕾数<br>(個) | 分枝数<br>(本/株) | 花蕾数<br>(個/株) |            |            |     |
| 6/10         | 2cm  | 10/6         | 28.7b      | —           | —          | 3.0ab        | 24.8b        | 3.0cd      | 17.6b      | 5   |
|              | 5cm  | 10/2         | 33.9b      | —           | —          | 4.6a         | 36.8ab       | 3.0bc      | 19.5ab     | 5   |
|              | 無摘心  | 9/24         | 35.1b      | 14.5b       | 4.8b       | 3.8ab        | 26.0b        | 2.8d       | 19.6ab     | 5   |
| 7/11         | 2cm  | 11/13        | 29.3b      | —           | —          | 2.5b         | 30.5b        | 3.2a       | 21.6a      | 15  |
|              | 5cm  | 11/10        | 41.2a      | —           | —          | 3.2ab        | 51.4a        | 3.2ab      | 21.5ab     | 15  |
|              | 無摘心  | 10/26        | 42.8a      | 20.8a       | 6.7a       | 4.1b         | 47.6a        | 3.2ab      | 19.1ab     | 15  |
| * *          |      |              |            | * *         | * *        | * *          | * *          | * *        | *          |     |

表中の\* \*は分散分析1%水準、\*は5%水準で有意差あり、n. s.は有意差無し、表中の異なるアルファベットはTukey-Kramerの多重比較検定(5%水準)の結果を示す



図1 2021年6月10日播種の草姿[カラー46頁]  
左から無摘心、5cm摘心、2cm摘心  
(2021年10月5日撮影)



図2 2021年7月11日播種の草姿[カラー46頁]  
左から無摘心、5cm摘心、2cm摘心  
(2021年11月12日撮影)

#### 4. まとめ

6月10日及び7月11日播種では、無摘心、草丈10cm時に地際より2cm, 5cm摘心する摘心方法に関係なく、草丈は43cm以下となり、鉢物に適した草姿50cm以下で6月10日播種では9月下旬～10月上旬、7月11日播種では10月下旬～11月上旬の開花となり、年内出荷が可能であることが分かった。また、草丈10cm時に地際より2cm摘心及び5cm摘心では、7月11日播種は6月10日播種に比べて花蕾数が多くなり株幅も大きくなり品質が優った。

#### 5. 注意事項

6月及び7月播種の移植後は高温期の管理と

なるため、移植及び定植後は直ちに十分なかん水を行い活着促進させる。活着後から抽台までのかん水は鉢用土がほどよい湿り気のある状態で乾かないように管理し、極端な過湿乾燥を避ける。また、高温期に乾燥させると生長点が萎れ生育が遅延し、過湿状態が続くと抽苔せず根の伸長を阻害し、葉色が黄変し正常な生育の妨げとなる。

#### 引用文献

- 岩城篤哉, 重川裕, 横井昭敏 (2021) : デルフィニウム‘さくらひめ’の鉢物栽培技術の確立, 愛媛農林水研報, **13**,30-42.
- 岡本充智, 廣瀬由紀夫, 中村嘉宏 (2014) : デルフィニウム新品種‘さくらひめ’の育成, 愛媛農林水研報, **6**,1-4.